



平成 29 年 5 月 31 日

各 位

会 社 名 **株式会社 ティビィシー・スキャット**
代 表 者 代表取締役社長 安田 茂幸
(コード：3974 東証 JASDAQ)
問 合 せ 先 常務取締役
経営管理本部長 古澤 誠一
(TEL：03-5623-9670)

平成 29 年 10 月期第 2 四半期（累計）業績予想 及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の動向を踏まえ、平成 28 年 12 月 27 日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 29 年 10 月期第 2 四半期（累計）（平成 28 年 11 月 1 日～平成 29 年 4 月 30 日）連結業績予想の修正 (単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1 株あたり 四半期純利益
前回発表予想 (A) (平成 28 年 12 月 27 日)	1,406	110	93	61	44 円 97 銭
今回発表実績 (B)	1,250	38	20	18	13 円 43 銭
増 減 額 (B-A)	△156	△72	△73	△43	—
増 減 率 (%)	△11.1	△65.1	△78.5	△69.8	—

(注) 当社は、四半期業績開示を当事業年度より行っているため、平成 28 年 10 月期第 2 四半期の実績は記載しておりません。

2. 平成 29 年 10 月期（平成 28 年 11 月 1 日～平成 29 年 10 月 31 日）通期連結業績予想の修正 (単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1 株あたり 当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 28 年 12 月 27 日)	2,852	245	227	145	104 円 18 銭
今回発表実績 (B)	2,567	145	125	87	61 円 88 銭
増 減 額 (B-A)	△284	△100	△102	△57	—
増 減 率 (%)	△10.0	△40.9	△44.9	△39.6	—
(ご参考) 前期実績 (平成 28 年 10 月期)	2,866	217	239	143	112 円 31 銭

3. 修正の理由

【第2四半期累計期間業績予想の修正の理由】

当社グループは、当社及び連結子会社（TBCシルバーサービス株式会社）の2社で構成されており、美容サロン向けICT事業、中小企業向けビジネスサービス事業、及び介護サービス事業を営んでおります。

(1) 売上高

平成29年10月期第2四半期累計期間の連結売上高は、当初1,406百万円（前期比5.5%減）を見込んでおりましたが、下記要因により1,250百万円（前期比16.0%減）となる見込みです。

①美容サロン向けICT事業

美容業界は店舗の二極化傾向や、消費者の節約志向の定着化、少子化に伴う人手不足により競争の激化が続いております。さらに、美容サロン検索サイトなどのクーポン誌に売上を依存して経営を悪化させているサロンが増加してきております。

（物販売上高）

美容サロン向け新規販売台数に係る売上については、成長戦略の重点項目として前期比53.6%増の当初見込台数を掲げており、これは当初の見通しの通り推移しております。

しかし、既存顧客の買替（リプレイス）に係る売上については、当初見込台数（前期比7.8%増）を大幅に下回り見込の62.8%の実績となりました。これは、単店サロン等の中小規模ユーザーが、美容サロン検索サイトや割引クーポンなどの広告費に依存等により損益が悪化し、様子見及び先延ばし傾向が表れております。また、今期に入り当社の20年以上の有力販売店（大手美容ディーラー）が、自らPOS型システムを制作販売し、当社顧客との買替商談で競合となり、一部地域において商談期間の長引きや、先送りなど商談に影響が表れております。

さらに、大規模多店舗経営の美容サロンの新規出店計画が、新卒美容師数の減少傾向や人材不足等により、延期や計画見直しが増え、既存客の追加販売（リピート）が当初見込数の48.1%と減少いたしました。

一方、美容ディーラー向け販売管理システムの販売売上については、大型受注案件によるソフトウェアのカスタマイズが増加しており、売上件数は当初見込数の130%増となっております。しかし、このソフトウェアカスタマイズは、システム変更に伴う検証や納品に工数がかかり、売上見通しが下半期もしくは来期に延期しております。

（保守サービス、その他売上高）

保守サービス及び集客ツール（Salon Appli等）の契約件数は、既存顧客の契約数及び新規顧客の契約数を見込み算出しており、ほぼ当初見通しの通り推移しております。

以上により、美容サロン向けICT事業の第2四半期累計売上高は699百万円（前期比14.5%減）を見込んでおります。

②中小企業向けビジネスサービス事業

中小企業向けビジネスサービス事業では、前年度の断捨離施策である製造業向け人材派遣事業に続き地方自治体向け業務請負事業からの撤退により、売上高は前年同期より113百万円減少したものの、会計サービスによる売上の安定した計上により収益は大幅改善しました（前年同期セグメント損失17百万円）。

以上により、中小企業向けビジネスサービス事業の第2四半期累計売上高は189百万円（前期比37.4%減）を見込んでおります。

③介護サービス事業

介護サービス事業では、介護付き有料老人ホーム3施設のうち1つの施設が、第1四半期において発生した入居者のインフルエンザ等の疾病入院による稼働率低下及び介護報酬単価の値下げの影響もありましたが、他の2施設が堅調により稼働率9割以上を確保しております。

以上により、介護サービス事業の売上高は 352 百万円（前期比 1.7%減）を見込んでおります。

④その他

その他は、当社が所有するビルの賃貸収入によるものであり、売上高は 12 百万円を見込んでおり、これらは概ね予定通り推移しております。

(2) 売上原価、販売費及び一般管理費、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益

売上原価は、各セグメントに起因する労務費、外注費、介護施設運営費、及びその他諸経費の発生額を見積り算定し 824 百万円（前期比 12.5%減）を見込んでおりましたが、759 百万円（前期比 19.4%減）となる見込みです。

販売費及び一般管理費は、472 百万円（前期比 5.2%増）を見込んでおりましたが、452 百万円（前期比 0.8%増）となる見込みです

以上により、平成 29 年 10 月期の営業利益は 110 百万円（前期比 13.4%増）を見込んでおりましたが、売上高減少に伴い営業利益は 38 百万円（前期比 60.5%減）となる見込みです。

営業外収益及び営業外費用については当初予定通りの見込みであります。

その結果、平成 29 年 10 月期の経常利益は 93 百万円（前期比 20.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は 61 百万円（前期比 11.7%減）を見込んでおりましたが、経常利益は 20 百万円（前期比 83.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は 18 百万円（前期比 73.3%減）となる見込みです。

【通期連結業績予想の修正の理由】

通期連結業績予想につきましては、上述の第 2 四半期連結累計期間における業績修正の内容を反映させ、かつ販売営業上の下記仕掛けを加味し第 3 四半期及び第 4 四半期の業績見込みを修正しております。

(1) 売上高

平成 29 年 10 月期の連結売上高は、当初 2,852 百万円（前期比 0.5%減）を見込んでおりましたが、下記要因により 2,567 百万円（前期比 10.4%減）となる見込みです。

①美容サロン向け ICT 事業

当セグメントの平成 29 年 10 月期の売上高は、1,710 百万円（前期比 2.7%増）を見込んでおりましたが、下半期見込売上高 755 百万円を含め 1,454 百万円（前期比 12.6%減）となる見込みです。

(物販売上高)

成長戦略の一つであるスマホアプリ（Salon Appli）活用により、コンシューマーと美容サロン及び美容ディーラーを繋ぐ B to B to C ビジネスの展開のための布石として、美容ディーラー向けシステムのバージョンアップ及び各社毎のカスタマイズ販売を実施しております。

また販売体制では、日本国内及び海外に「モッズ・ヘア」サロンを展開する株式会社エム・エイチ・グループ（JASDAQ：9439）及び連結子会社である株式会社ライトスタッフとのクレジットカード機連携による当社システムの指定機種による拡販体制を整備しました。

これら売上高計画を積上げた結果、下半期は、既に受注している案件もしくは継続が見込まれる案件の売上高が約 153 百万円、受注に至っておりませんが商談の進んでいる案件が約 420 百万円、その他既存見込客毎の上積み予測を加味し、物販売上高は 573 百万円となる見込みです。

(保守サービスその他売上高)

保守サービス及び集客ツールの契約件数は、既存顧客の契約数及び新規顧客の契約数の見込みを算出しており、182 百万円となる見込みです。

② 中小企業向けビジネスサービス事業

中小企業向けビジネスサービス事業は、会計サービス（BPO：ビジネスプロセスアウトソーシング含む）と人材サービスで構成されており、既存客を中心に継続的に当社サービスを利用される顧客が多く、売上高は390百万円を見込んでおりました。

これらは概ね予定通り推移しており、平成29年10月期のセグメント売上高は366百万円となる見込みです。

③ 介護サービス事業

介護サービス事業は、既存の入居者数を基に、過去（3期間）の新規及び退去のデータから予測した入居者数及び要介護者数に月額介護報酬を乗じて算出しており、売上高は732百万円を見込んでおりました。

これらは概ね予定通り推移しており、平成29年10月期のセグメント売上高は726百万円となる見込みです。

④ その他

その他は、当社が所有するビルの賃貸収入によるものであり、売上高は20百万円を見込んでおり、これらは概ね予定通り推移しております。

(2) 売上原価、販売費及び一般管理費、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益

売上原価は、各セグメントに起因する労務費、外注費、介護施設運営費、及びその他諸経費の発生額を見積り算定し1,677百万円（前期比4.0%減）を見込んでおりましたが、売上高減少により1,522百万円（前期比12.9%減）となる見込みです。

販売費及び一般管理費は、930百万円（前期比3.3%増）を見込んでおりましたが、前年同期とほぼ同額の900百万円となる見込みです。

以上の結果、平成29年10月期の営業利益は245百万円（前期比12.7%増）を見込んでおりましたが、売上高減少に伴い営業利益は145百万円（前期比33.4%減）となる見込みです。

営業外収益及び営業外費用については当初予定通りの見込みであります。

その結果、平成29年10月期の経常利益は227百万円（前期比5.2%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は145百万円（前期比1.4%増）を見込んでおりましたが、経常利益は125百万円（前期比47.8%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は87百万円（前期比38.8%減）となる見込みです。

注) 上記に記載した業績予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により上記予想数値と異なる場合があります。なお、年次見通しについては保守的な見通しにより計上しております。

以 上